

五輪と万博、東京・大阪の 未来予想図

—メディアに課せられた視点—

東京五輪・パラリンピック開幕が迫ってきた。日本が経済成長し、世界の先進国入りする契機となった前回と違い、二度目となる2020年は、史上最多の競技数と大規模化し、多くの外国人が訪れる。政府は「復興五輪」と位置付けるが、日本オリンピック委員会（JOC）会長交代にまで発展した招致疑惑の影も見え隠れする。2025年には大阪・関西万博の国家的イベントも控えている。財政問題など乗り越える課題を抱えながら東京と大阪はどう変貌していくのか。東京一極集中が進む中、「都構想」やカジノ誘致などで復権を目指す大阪。メディアはどう報じていけばいいのかを話し合う。

日時

2019年

11月8日(金)

13:30~17:00

13:00受付開始

場所

ヒルトンホテル大阪

大阪市北区梅田1-8-8

基調講演



二宮 清純

評論家・スポーツジャーナリスト

1960年、愛媛県生まれ。スポーツ紙や流通紙の記者を経てフリーのスポーツジャーナリストとして独立。オリンピック、サッカーW杯、メジャーリーグ、ボクシングなど国内外で幅広い取材活動を展開。明治大学大学院博士前期課程修了。広島大学特別招聘教授。大正大学地域構想研究所客員教授。認定NPO法人健康都市活動支援機構理事。「スポーツ名勝負物語」「歩を『と金』に変える人材活用術」など著書多数。

プログラム

13:35~14:45 【第1部】基調講演

14:45~15:00 休憩

15:00~17:00 【第2部】パネルディスカッション

17:00 終了

コーディネーター



松本 真由美

東京大学教養学部客員准教授

熊本県出身。上智大学外国語学部卒業。大学在学中にテレビ朝日の報道番組のキャスターになったのをきっかけに、報道番組のキャスター、リポーター、ディレクターとして幅広く取材活動を行う。2008年より東京大学における研究、教育活動に携わる。東京大学での活動の一方、講演、シンポジウム、執筆など幅広く活動する。

パネリスト



宮本 勝浩

関西大名教授

1945年和歌山市生まれ。大阪大学大学院経済学研究科修士課程修了。大阪府立大経済学部長、副学長、関西大学大学院教授などを歴任。2015年より現職。専門は国際経済学、理論経済学、関西経済論、スポーツ経済学。「経済効果ってなんだろう?」(中央経済社)等の著書をはじめ国内外の大学の客員教授、各種公職も歴任。「阪神優勝の経済効果」「第100回夏の甲子園の経済効果」など数々の経済波及効果を試算、発表しており「経済効果の匠」と呼ばれる。



小椋 久美子

元女子バドミントン
日本代表

三重県出身。8歳でバドミントンを始める。2001年の全国高校選抜でシングルス準優勝。三洋電機入社後の02年には全日本総合バドミントン選手権シングルスで優勝。その後、ダブルスプレーヤーに転向し、北京オリンピックで5位入賞、全日本総合バドミントン選手権では5連覇を達成。10年現役を引退。現在は解説や講演など通じてスポーツの楽しさを伝える活動を行っている。



生島 淳

スポーツライター

1967年、宮城県生まれ。早稲田大学卒業後、博報堂に入社。勤務のかたわら執筆活動を開始し、1999年に独立。オリンピックは1996年のアトランタ大会、ラグビーW杯は1999年のウェールズ大会から現地にて観戦、取材。著書に「奇跡のチーム」「箱根駅伝ナイン・ストーリーズ」(いずれも文春文庫)、「エディー・ジョーンズとの対話」(文藝春秋)など。



小林 伸年

時事通信解説委員長

東京都出身。86年時事通信社入社。静岡総局、横浜総局、本社内政部、シドニー特派員、内政部長、長野支局長、海外速報部長等を経て2019年7月より現職。内政部時代は主に社会保障、公共事業、地方財政を担当した。「人口減少時代の行政施策」「効果的な自治体広報」などをテーマに地方自治体の職員研修会などで講演しており、「全論点 人口急減と自治体消滅」「自治体PR戦略 情報発信でまちが変わる」(いずれも時事通信出版局)を監修。